

# 令和8年度第1回秋田県・市町村協働政策会議総会次第

日時 令和8年5月18日(月)  
午後3時30分～午後5時  
場所 秋田県市町村会館 5階  
大会議室

## 1 開 会

## 2 あいさつ

## 3 議 事

### (1) 県提案

- ①「秋田移住ブーストキャンペーン」の市町村との連携について **【資料1】**
- ②陸上風力発電所の安全対策について **【資料2】**
- ③ツキノワグマによる被害防止対策について **【資料3】**

### (2) 県からの説明・報告事項

- ①県・市町村間の業務の更なる協働・連携に向けた取組について **【資料4】**
- ②秋田県防災基本条例(仮称)の制定について **【資料5】**
- ③アキタコアベース(秋田県あきた暮らし・交流拠点センター)について **【資料6】**
- ④「災害中間支援組織」の設置について **【資料7】**
- ⑤地域運営組織の形成に向けた取組について **【資料8】**
- ⑥「心が動くあきたの観光」の実現に向けて **【資料9】**
- ⑦あきた農林水産ビジョンの推進について **【資料10】**
- ⑧あきた賃上げ緊急支援金について **【資料11】**
- ⑨あきた水の官民連携(ウォーターPPP)の推進について **【資料12】**
- ⑩令和8年度秋田県住宅リフォーム推進事業の拡充について **【資料13】**
- ⑪改正道路交通法の施行等について **【資料14】**
- ⑫総合計画の推進について **【資料15】**
- ⑬県・市町村によるDX推進体制について **【資料16】**
- ⑭民生委員・児童委員の就任及び活動について **【資料17】**
- ⑮全国高等学校総合文化祭(あきた総文2026)について **【資料18】**

※資料1,3,5～18については、資料配付のみ

### (4) その他

## 4 閉 会

## 1 開 会

## 2 あいさつ

(鈴木知事)

本日は公務で御多忙のところ、今年度最初の市町村協働政策会議に御参加いただき、御礼申し上げます。そして、この度、新しく能代市長に就任された鍋谷市長、再選を果たされました田川三種町長、備前東成瀬村長にお祝いを申し上げます。大変な時代ではあるが、力を合わせて県民のために頑張っていきたい。

4月に入り新年度となり、県の新しい総合計画が始まった。私が昨年就任してから1年かけて県庁内で議論をしながら策定してきた。長い文章ではなく、明確な方向性と目標を掲げようと策定したものである。これは県の目標だが、必ず市町村事業に影響してくるものとする。この後、様々な議題があるが、県が力を入れて進めることであり、それを利用して皆様の自治体でも成果を上げられるように力を合わせていただきたい。

例えば、観光については、国内・インバウンドを合わせて旅行消費額を4年後には今の約2倍にする目標を定めている。野心的に見える目標ではあるが、現在地がかなり低かったという認識の下に、頑張る頑張る何とか達成できるという水準の目標を定めている。これまでと違い、年度ごとの中間目標を定め、可能な限り進捗を管理しながら、必要であればネジの巻き直しをしながら必達を目指していく。市町村長の皆様においては、県の姿勢を御理解いただき一緒に歩んでいただければと考える。

次に、クマと陸上風力発電事故に関して申し上げます。移住や観光などの取組を前向きに進めるに当たっては、安心・安全という大前提が脅かされては話にならない。県として、各市町村と力を合わせながら、行政、教育機関、警察、皆今までどおりの対応ではなくチャンネルを変えて、実効性のあるできる限りのことを全てやった上で少しでも事故の起きる確率を低減させていく姿勢で進めていく。

是非実のある活発な議論を期待する。本日は、よろしくお願ひ申し上げます。

## 3 議 事

### (1) 県提案

#### ① 「秋田移住ブーストキャンペーン」の市町村との連携について（人口戦略部）

(資料1により人口戦略部長が説明)

(大館市長)

現段階で、キャンペーンを通じてどのような秋田を売り込もうとしているのか。統一的なキャッチコピーの設定などは考えているか。

(知事)

メインターゲットは、子育て世帯や若者に設定している。

自然環境や子育て環境、地元の良さやのんびり暮らせる良さをしっかりと伝えていけるキャッチコピー等を、今後より洗練して出していく予定である。

小中学生の幸福度が総合的にトップクラスだったとの報道があったが、こうした県内共通の強みを意識しながら方向性を出してまいりたい。

(美郷町長)

移住には、仕事との関係性が不可欠だが、仕事とのマッチングや受け皿は、どう考えているか。

(知事)

県は「アキタコアベース」という独自の拠点を設け、相談を受け付けているが、これまで県内企業とのマッチングに不十分な面があった。県内（アトリオン5階）にもコアベースの拠点を設け、かつ、市町村との連携を強化することで、4月からマッチングの体制を強化している。

(にかほ市長)

移住では市町村が実際の現場となる。キャンペーンを市の施策にどのように組み込むことができるか考慮して連携することで相乗効果が起きるのではないか。これまでは、県から入ってくる情報が少なかったと感じる。今後は、より密にコミュニケーションをとっていただきたい。

(知事)

体制の強化が今回の改善点の大きな一つである。県が行っていることを各市町村に情報提供するが、それをいかに市町村の現場で活かすかは、県が25市町村分考えることは難しく、現場レベルで上手に活用していただきたい。

(湯沢市長)

以前知事から「今までやってきたことの精度を上げて成果を出す」とあったが、そのために県と25市町村が一緒になって取り組むことが多々あると考える。

また、知事が力を入れているマーケティングの手法を市町村にも指導していただきたい。市町村の独自の施策も県の施策と合わせて、資料の作り込みなどできることが多くある。市町村をもう少し強引にでも巻き込んでいただきたい。

(知事)

昨年7月に県のマーケティング戦略室を立ち上げて、まずは、県の体制構築に集中したが、市町村や民間事業者から多くの要望をいただき、それを展開することを考えている。

現在、専門家3人にアドバイザーをお願いしているが、そのノウハウを市町村とも共有することで施策の精度が上がると考える。

(政策企画部長)

昨年度に市町村の担当者を対象に研修会を行っている。

今年度も全体的なものやある程度テーマを絞った研修会などを開いて、一緒に取り組んでいくことで広げていきたい。

(知事)

市町村事業と県事業の一体的な見せ方について、仮に紙ベースだとすると25市町村のアップデートを毎回反映するのは難しく、WEBベースなど様々なあり方を検討する。

(大仙市長)

110万円のデジタル商品券の金額は、どのように設定したのか。

(人口戦略部長)

首都圏在住の子育て世帯を対象としたアンケート調査で、「100万円程度の支援があれば移住への考え方が変わる」という意見が複数あったため、それを参考に設定した。

(井川町長)

WEBベースという話があったが、25市町村の施策の比較ができるサイトを県が立ち上げ、市町村が更新できればよいと考える。

移住を検討する方は、どこがどういう施策をやっているか見る時間が取れず、また、若い世代は、様々な比較サイトを自身の生活へ活用しているとのことである。

そうしたサイトがあると、移住検討者にとって分かりやすいと考える。

(知事)

御提案に御礼申し上げます。お客様目線で分かりやすいものを作ることはマーケティングの目線からも重要であり、検討する。

110万円のデジタル商品券は、あくまで総合的なPRの中の一つに過ぎない。

また、子育て世帯だけではなく、若者世代の中でも秋田へ帰りたいという人が予想以上に多く、若者もターゲットとしている。

PRの質を変えた昨年の12月から今年の3月までの4か月間だけで、新規移住登録者数が昨年同期比で37%増、東京のコアベースの相談件数に至っては66%増えており、PR

へ力を入れているという情報が首都圏在住の秋田県出身者を中心に届いているようだ。この調子で県として取組を強化していくので、市町村でも取り込めるように力を合わせていただきたい。

## ②陸上風力発電所の安全対策について（産業労働部）

（資料2により産業労働部長が説明）

（秋田市長）

昨年度秋田市で事故があり、調査が行われているものの時間がかかっているように感じる。そのうちに2件目が起きてしまったということで、知事が5月29日に要望予定とあるが、安全基準の見直しと原因究明は、セットで早急にやっていただきたい。

基準の見直しについては、風車が設置されている自治体と情報を共有いただき、どのように見直しをしていくべきか議論をさせていただきたい。

（知事）

早期の原因究明は、昨年の事故発生直後から要望してきたところである。その矢先にまた起きてしまった。現地で生活している私たちの温度感を、国により強く声を上げ続ける。

御理解をお願いしたい。

（三種町長）

沿岸部は陸上風力発電が多く、こまめな点検を行うための地元事業者や人材の育成も必要ではないかと考える。メーカーに丸投げするのではなくて、設置した事業者が自主的な点検を重ねられるような制度や、地元の風力発電に関わる事業者にもノウハウを指導いただけるような体制づくりも、県へお願いしたい。

（産業労働部長）

保守点検は、風力発電を進めていく上で非常に大事な部分である。

保守点検事業者との意見交換で、点検のあり方について検討を進めていきたいというお話があった。これと並行して、地元の事業者の方たちがノウハウを習得して、地元のことは地元でできるようになることも必要である。

（男鹿市長）

羽根が折れているのを見て驚いたが、知事の迅速な対応に感謝する。

男鹿市ではすぐに業者から報告を受けて、市民に安全に注意するように防災無線で発信し、交通規制も行い、迅速に対応した。

地域自治体に即連絡してもらった体制は、非常に重要であり、国にもお願いしてきたが、

昨年事故があった関係で安全基準等の検証についても早く進むのではないかと感じている。事故調査委員会にはメーカーもメンテナンス業者も入ってスピード感を持ってやってくれるという話なので安堵している。

また、最近小型風車も転倒の事故があった。高さ 20m ほどの風車が根本から折れていた。これについても地元自治体への連絡体制がなく、私が知ったのは転倒から 1 週間以上過ぎてからだった。小型風車についても県から国に強く要望していただきたい。

風の資源を活かして風力発電も前に進めていく体制も進めていただきたい。

(知事)

私もその倒壊の案件についてはしばらく日数が経過してから聞いた。自治体に対する通報連絡の義務がないことは問題である。小型とはいえ、20m のものが倒れば大事であり、こちらの温度感をしっかり国に伝えたい。

今月末の国への要望でも、情報共有は最低限行っていただくように要望することを検討しており、その点は御理解いただきたい。

(由利本荘市長)

法定点検を行っていたにも関わらず、事故が起きたことから、点検の頻度や質についても検討をお願いしたい。また、どのような点検を行うのか市町村にも情報共有してほしい。

(知事)

点検をしても事故が起きるなら基準がおかしいということである。事故がゼロとなる点検の基準を考えてもらうことを強調する。

秋田大学、NTT 東日本と協定を結んで、ドローン等の先進的な点検機器の技術的な挑戦や導入助成をしており、事業者への働きかけをお願いしたい。

### ③ツキノワグマによる被害防止対策について（生活環境部）

(資料 3 により生活環境部長が説明)

(大館市長)

大館市では、昨年 381 頭を捕獲し、危機感を持っている。猟友会との意見交換では、ガバメントハンターでこの規模に対応できるか、また、ガバメントハンターの採用による猟友会のモチベーション低下について意見があった。さらに平日の日中の稼働などに課題があるため、仕組みづくりについて要望があった。

大館市では、撃つためのハンターではなく、猟友会との意見調整や先進事例の調査・実証など包括的にコーディネートできる人材を育成することを検討しているが、他市町村ではガバメントハンターの役割や捕獲の体制をどのように検討しているか、また、実

際にどのように進んでいるか教えていただきたい。

(北秋田市長)

猟友会との信頼関係を作っていないとガバメントハンターの採用というのは難しいと考える。役割分担の明確化も必要であり、これからガバメントハンターを養成する自治体もある程度時間がかかるものと思う。

また、北秋田市では阿仁町時代からクマ牧場があり、クマの生態に詳しく自身も狩猟免許を持っている者に知識をしっかりと広めていただいている。時間をかけながらトータルで進めていく必要があると考える。

(知事)

ガバメントハンターの定義については、国も明確な形を示せておらず、県も同様である。

25市町村でそれぞれ特性が異なり、財政事情の違いや猟友会との関係も様々で、県として統一的なあり方を示すのは難しいと考える。大館市のようにしっかり対話し、地域特性に応じた形で検討していただき、それを県が支援する形しかないと感じている。

実効性が一番大事であり、色々な形があると考えます。

(生活環境部長)

国の審議会を見てもガバメントハンターの定義がはっきり示されていない。公務としてどこまで仕事ができるのか等、国に対して定義を明確にするよう要望する。

(羽後町長)

自衛隊のOBや55歳で定年された方々の中に、銃の経験がある方や様々な大型免許を持っている方がたくさんいらっしゃるため、6月にはその方々に御相談することを考えている。

猟銃の免許を取る必要があるが、冬は朝4時頃からグレーダーに乗って雪を押しながらクマの巡回をしてもらうことも検討している。

羽後町は町の面積の7割が森林原野であり、緩衝地帯を設けることは地域住民の協力だけでは難しい。クマを撃つことや箱わなを設置することだけがハンターの仕事ではなく、緩衝地帯の整備も重要な仕事と考えられ、様々な可能性を探っていきたい。

(知事)

県内に陸上自衛隊・航空自衛隊があるが、もっとも隊員が多いのは陸上自衛隊の秋田市の秋田駐屯地である。毎年定年退職者が出ており、県北、県南の出身の方は待遇の条件次第では里帰りをしつつ市町村に就職をすることにも前向きな印象を受けたため、是非活用を御検討いただければと思う。

(東成瀬村長)

東成瀬村は、豪雪地帯であり、狩猟機会も限られるため、給与体系など年間を通じてどのような体制をとるかが課題となっている。

また、本村は93%が森林であり、森林地帯は岩手県、宮城県と3県にまたがっている。国道は2線あり、342号が一関市、397号が奥州市に通じているが、近年、この国道でクマやシカが頻繁に目撃されている。

両市長とお会いする機会があり、奥州市では箱わなで捕獲したクマを県境付近の山に放獣しており、それが一関市に来て困っているという話もあった。

県境をまたいだ広域的な対策について、各県で協議を行うのか、現時点での見解、方針等があれば伺いたい。

(生活環境部長)

クマが1日50kmを移動するという話もあり、県境は、関係ない。国への要望においても、国が主体となって広域的にクマのモニタリング調査をすべきだと要望しており、今年度東北地方を皮切りにその取組を始めるということになっている。

6月上旬に仙台市で東北6県の担当者が集まり、国主催の会議を開く予定である。広域的なクマ対策のあり方についての議論で提案したい。

(知事)

北東北3県(秋田、青森、岩手)の知事間でも強い危機感を共有しており、連携して対策を進めていく。

個体数については専門家の意見によると、東北のクマは異常に増えているということで一致している。西日本の成功事例と比較されるが、面積と人口密度、クマの頭数から東北では適用できないと考えられる。

棲み分けをして安全確保というのが理想だが、今はそういう局面ではなく、出てきた個体については捕獲・駆除して頭数をある程度コントロールしなければ成果は出ないと考える。

(五城目町長)

昨年秋の自衛隊派遣に感謝申し上げる。

資料に「学校、森林、河川等での伐採・藪の刈り払い」とあるが、県と市町村でどのように役割分担をしていくのか。

また、農家の方々はクマだけでなくイノシシにも危機感を持っている。イノシシも爆発的に増えており、昨年はイノシシにより米が全く取れなかった事例もあったため、是非県にはツキノワグマ対策と並行してイノシシ対策も進めていただきたい。

(農林水産部長)

水と緑の森づくり税を活用した緩衝帯の整備を行っている。令和7年度は213ha(8,700万円)で実施をしており、令和8年度は384haで実施している。

また造林補助事業の公共予算でも事業を実施しており、国の予算なども使いながら対応する。

(建設部長)

県管理の河川は県で伐木や刈り払いを実施する。国の交付金により、補助事業を行っている箇所について実施する。また県単独の経費としても維持管理業務の中で伐木を進めており、各市町村等から要望のあった河川やクマの目撃情報が多い箇所に優先順位をつけながら対策を進めていく。

(知事)

クマ対策は未曾有の事態であり、従来の枠を超えた対応が必要である。さらに出没が増える6、7月に向けて電気柵や刈り払い、箱わなの早期設置、そして子どもたちの通学時の見守りやスクールバスの特例運行など、前例にとられない対応をお願いしたい。特に子供の被害だけは絶対に出したくないと考える。

観光・移住への大打撃となりかねず、非常事態として認識を共有していただくようお願いしたい。

## (2) 県からの説明・報告事項

(抜粋して資料5, 7により県関係部局が説明)

## (3) その他

(仙北市長)

ホテルの誘致に向けて営業活動をしているが、他県では、県が主体となり相当な補助金を出して誘致をしている。観光地である仙北市としても県外のホテルを新しくオープンさせたいが、市単独では難しい。是非県内市町村で連携しながら、また、県と共に、魅力ある条件を提示して宿泊施設を県内に誘致したいと思うが、いかがか。

(知事)

本県の宿泊施設の稼働率は現状低い状況にあるが、集客力を上げながら、秋田県に不足しているカテゴリーのホテル誘致について、県としても情報を共有し連携していきたいと考えている。

秋田県は宿泊キャパが小さいことで他県に宿泊客数で後れを取っている側面もあるが、宿泊施設の稼働率も40%程度とかなり低く、このままではホテルの進出はしていただ

ないというのが現状である。

そのため、まずは集客力を上げていく。季節変動をなるべく減らし、オールシーズンで稼働率が上がってきてホテルが不足してくると事業者が進出するというのが正しい方向性だと考える。

ホテルにもカテゴリーがあり、高級宿、ビジネスホテルであってもハイエンドなホテルなど、秋田県に不足している部分を把握し、県の財政でできることを勘案しながら、情報を共有して参りたい。

各市町村でも様々な営業活動をされていると思うが、是非最新情報の共有をしながら力を合わせていただきたい。

#### 4 閉会